

# 富士通モバイルプロダクツ株式会社

## 2011 環境レポート

2011年11月18日



### 富士通モバイルプロダクツ株式会社 環境スローガン

富士通モバイルプロダクツ株式会社は、富士通グループの一員として富士通グループの環境方針に基づき、絶えず最新技術を追求し、高い品質性能を誇る製品を提供することで社会の発展に貢献するとともに、環境に配慮した事業活動で地球環境の保全に貢献していきます。

1. 環境に配慮した企業活動  
事業活動に伴う環境への影響を最小限に抑え、資源・エネルギーの有効利用および環境汚染の予防に努めます。
2. 企業責任の遂行と社会への貢献  
当社の活動、製品、サービスに係る環境側面を常に認識し、環境関連法規制、条例、協定、及び当社が受け入れを決めたその他の要求事項等を順守します。
3. TPS(Toyota Production System)を推進し環境負荷低減  
当社は、TPS活動を推進することにより生産効率を高め環境負荷の低減を図ります。



2011年 4月 25日  
富士通モバイルプロダクツ株式会社  
代表取締役社長 中本 誠

### ★ 2010年度の活動実績と2011年度の目標

	2010年度			2011年度
	目標	実績	評価	目標
環境マネジメントシステムの継続的改善	4部門で環境負荷低減の改善活動を実施する。	2部門/4部門 達成※1	△	4部門で環境負荷低減の改善活動を実施する。
環境社会貢献活動の実施	環境社会貢献活動を1件/年以上実施(大田原リペアセンター)	1件/年 実施 達成	○	環境社会貢献活動を 1件/年以上実施する。
環境コミュニケーションの推進	Webサイトの環境情報を継続的に更新・改善する。	1/4期毎に見直し改版	○	Webサイトの環境情報を継続的に更新・改善する。
生物多様性活動の実施	生物多様性活動を年間1件以上実施する。	1件/年 実施 達成	○	生物多様性活動を年間1件以上実施する。

※1:震災の影響等による未達成

### 全員参加型の環境活動

#### ★ スーパーグリーン製品の拡大

「スーパーグリーン製品」とは富士通グループ各社の「グリーン製品」であり「省エネ」「3R設計・技術」「含有化学物質」などの環境配慮レベルが、業界または自社/他社製品との比較において極めて優れたトップランナー以上の製品およびシステムであり、富士通ブランドの向上及び顧客満足度の向上を図ることを目的としています。2010年度、那須工場で生産されているスーパーグリーン製品に、下記の製品が追加認定となりました。

製品名	スマートフォン IS12T スマートフォン F-12C
認定年月	2011年10月
環境要素	①省エネ ②3R設計・技術
トップ内容	IS12T ①通話時間66%向上、ライフサイクル全体にて23%削減 ②体積20%削減、部品数7%削減
	F-12C ①待受け時間28%向上、廃棄・リサイクルにて259%の削減 ②質量20%削減、体積29%削減



★ 富士通グループは、環境省よりICTサービス業界で初めて「エコ・ファースト企業」として認定されました。「エコ・ファースト制度」とは、業界のトップランナー企業の環境保全に関する行動をさらに促進するために環境省が創設し、企業が環境大臣に対して地球温暖化対策等の自らの取り組みを約束するもので、2010年9月6日、社長山本正巳が「エコ・ファーストの約束」を小沢環境大臣(当時)と交わしました。

- 約束した内容(要旨)
1. グリーンICTの提供により、お客様・社会の環境負荷を低減します。
  2. 自らの事業活動における環境負荷を低減します。
  3. 生物多様性の保全を実現する社会づくりへ貢献します。

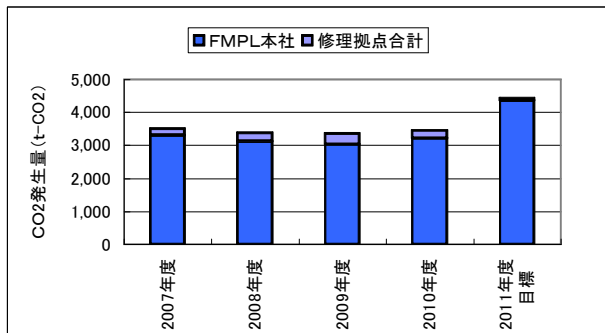


[エコ・ファーストマーク]

## エネルギー消費によるCO2排出量削減の取り組み

地球温暖化対策として、エネルギー消費によるCO2発生を抑えるために、省エネルギー活動に力を入れています。特に、エネルギー消費の約100%を電力が占めているため、節電に集中して取り組んでいます。

### ★ CO2発生量の削減



省エネルギーは、『既存設備の運用改善』と『設備投資による改善』を両輪として推進しています。

運用改善項目は、エアリーク対策として休日における圧縮空気手元バルブ閉止や照明の間引きを実施しました。

また、設備投資による改善として、コンプレッサー更新時に高効率タイプ導入や駐車場の外灯照明の省エネを推進しました。

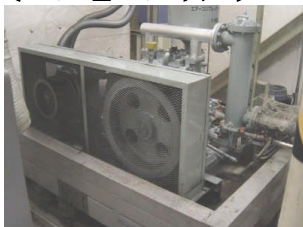
CO2排出量	2009年度	3,363t-CO2
	2010年度	3,448t-CO2
	2011年度目標	4,437t-CO2

### ★ 主な省エネルギー施策(設備投資)

#### ① エアコンプレッサーの高効率化(2009年度施策:東1番館用)

レシプロ型コンプレッサー2台を省エネタイプである最新のスクリー型コンプレッサーに更新しました。

〔レシプロ型コンプレッサー〕



〔スクリー型コンプレッサー〕



電気量削減:83.6kWh  
(34.0t-CO2)/年

#### ② 駐車場の外灯照明の省エネ(2010年度施策:第2駐車場,第4駐車場)

駐車場に設置されている照明(投光器型水銀灯)を省エネタイプである瞬時点灯型高効率タイプの照明に更新しました。

〔投光器型水銀灯〕



〔瞬時点灯型照明器具〕

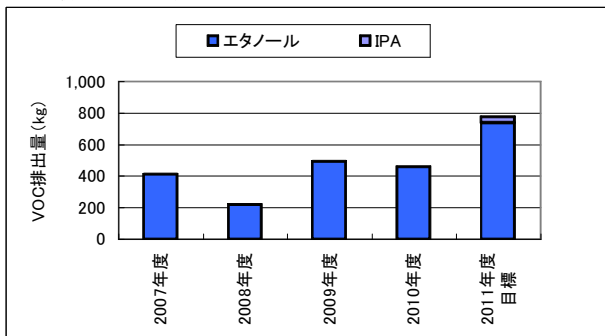


電気量削減:26.2kWh  
(10.7t-CO2)/年

## VOC排出量削減の取り組み

2007年度よりVOC(揮発性有機化合物)の排出量削減を環境目的・目標として、工場全体で取り組んでいます。

### VOC排出量の削減



VOC排出量削減のため、『VOC排出量の集計・管理』と『代替物質等の情報収集』を行っています。

VOC排出量の対象化学物質は、「エタノール」で、治工具の洗浄や基板洗浄に使用しています。

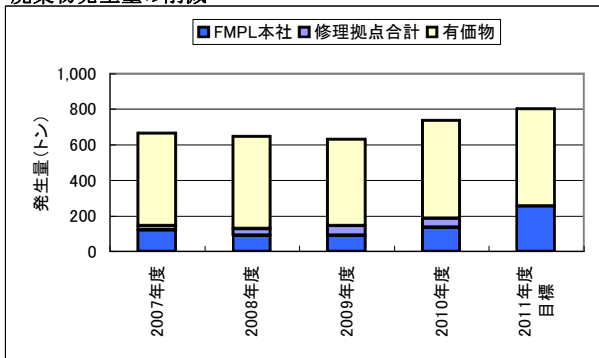
VOC排出量	2009年度	495kg
	2010年度	460kg
	2011年度目標	740kg

※購入量=使用量とし、2009年度より排出係数を100%としています。

## 廃棄物削減の取り組み

3R(リデュース・リユース・リサイクル)の基本方針のもと、生産活動で発生する廃棄物の徹底した減量化に取り組んでいます。

### ★ 廃棄物発生量の削減



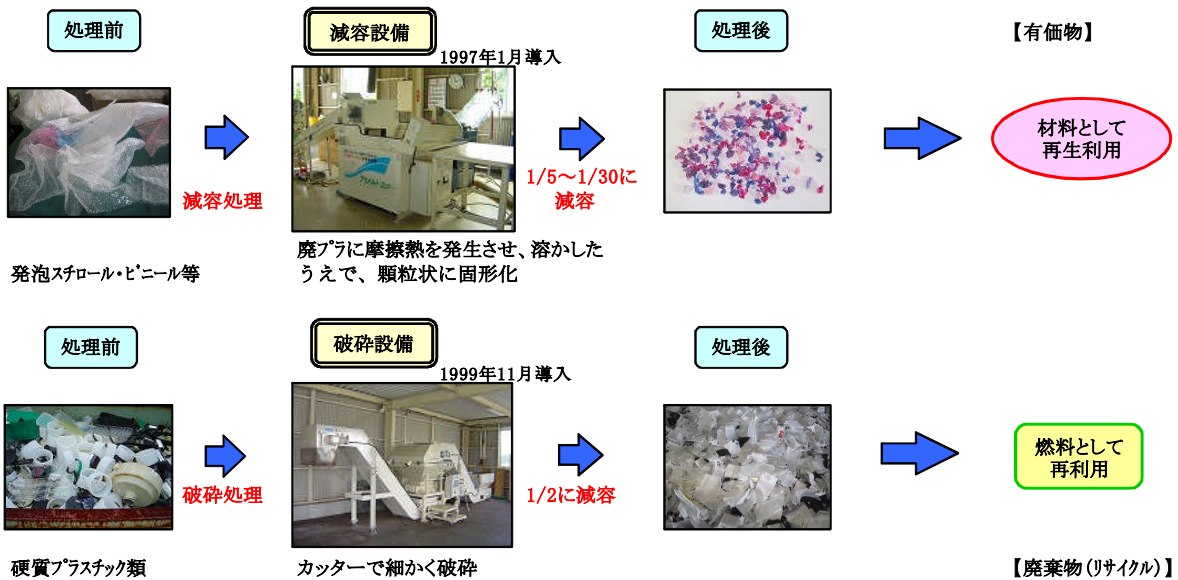
廃棄物削減の取り組みとしては、不要物の中から有価物の比率を増すために、徹底して分別を行なっています。また、再生利用業者を常にリサーチし、廃棄物から有価物への切替えを推進しています。

2011年度の新たな施策として、保護フィルムを廃棄物から有価物へ切替えを実施しています。

廃棄物発生量	2009年度	143トン
	2010年度	185トン
	2011年度目標	254トン

### ★ 廃プラスチックのリサイクル工程

廃プラスチック減容設備を導入し、再生利用の徹底と運搬の効率化を図っています。

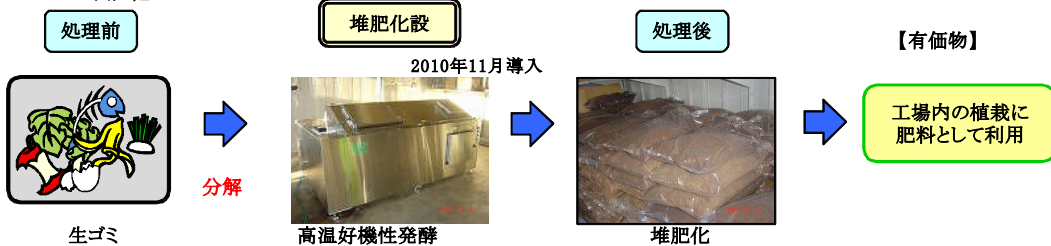


### ★ 携帯電話の有価物化

携帯電話にはレアメタルが含まれており、有価物にする事は、広く一般に有名ですが、データ流出防止が大きな課題でした。そこで、移動式粉砕機を持ち込み、粉砕してから社外に持ち出す方法とする事で、携帯電話の廃棄物を有価物に切り替える事ができました。



### ★ 生ゴミの堆肥化



## 環境社会貢献活動の取り組み

2007年11月から自然林の復元と環境教育、啓発活動を目的として、5年計画の「自然の森再生活動」を継続実施しています。(約0.11haにコナラ・クスギ・ヤマザクラ・ウメ・クリ等、約150本を植林)  
 その他、「野崎工業団地清掃活動」や「工場敷地内外の清掃活動」など、環境社会貢献活動に取り組んでいます。

- ★ 環境社会貢献活動  
 毎年6月の環境月間に「野崎工業団地清掃活動」に参加しています。また、定期的に工場周辺の清掃活動を行っています。



## 生物多様性保全活動の取り組み

2009年度より「足尾銅山植林プロジェクト」として足尾銅山の植林活動を実施しています。  
 今年度は実施日を10月22日(土)とし、植林活動実施に向けて準備を進めておりましたが、雨天のため中止としました。

- ★ 足尾銅山植林プロジェクト  
 従業員とその家族によるボランティア約25名が参加し、マテバシイの苗木180本を植林しました。(2010年10月23日)



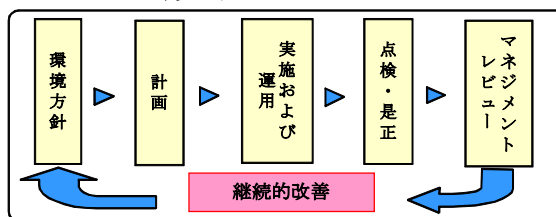
## 環境活動の取り組み

環境マネジメントシステムを構築・運用して、環境負荷の軽減に取り組むとともに、企業市民としての自覚を強く持って、地域や社会と調和する幅広い環境活動を推進しています。

- ★ 環境マネジメントシステム

当社は、富士通グループが2009年3月に取得した国内グループ会社90社と海外連結子会社11社を含むグローバル統合のISO14001認証に参加しています。  
 企業グループとしてのガバナンスのいっそうの強化を実現し、より効率的で実効性の高い環境活動を推進しています。

- ◆ 環境マネジメントシステムのサイクル



- ▶ 環境監査

環境活動が適正に行われているかを点検するために、定期的に環境監査を行っています。

〔外部審査〕 2010年度は審査なし。

〔内部監査〕 2010年度は本社と大田原リペアセンターで実施し、改善の機会7件の指摘を受け、6件を改善しました。(那須リペアセンターが拠点として、消滅したため、1件は対応なし)

〔内部監査〕



▲ 2010年11月8・9日

- ▶ 環境教育

環境活動の重要性・マネジメントシステムの理解・順法徹底などを目的に、従業員全員を対象に教育を実施しています。



- 〔環境講演会〕
- ・テーマ  
 「放射能が環境におよぼす影響について」
- ・講師  
 富士通 環境本部 シニアディレクター

- ◆ 過去1年間に実施した主な教育・訓練

教育内容	対象者	受講人数
一般環境教育(e-Learning)	全従業員	全員
那須工場環境教育	全従業員	全員
環境講演会(6/23)	希望者	17名